
小 池 昌 人

議長（村松 積） 次に、1番、小池昌人君、質問を許します。登壇願います。

1番、小池昌人君。

1番（小池 昌人） 1番、小池昌人です。

先に通告ありますとおり、2項目について質問をさせていただきます。

まず、奨学金制度の拡充について質問させていただきます。

厳しい経済状況が続く中、多額の教育費がかかることから、経済的理由で十分な教育が受けられない、またそのチャンスを逃してしまうという状況下、昨年6月第2回定例議会におきまして、村独自の奨学金制度の創出について一般質問をさせていただきました。その必要性を認識され、前向きな答弁をいただき、昨年12月新年度を待たずして下條村が国の教育ローンに対し、独自の保証料補給制度をスタートという形で、村の奨学金制度が創出されました。

平成20年に行われた下條中学校の生徒と保護者へのアンケートによりますと、「奨学金制度があれば利用するか」との問いに対して60%を超える人が「利用する」との回答があり、奨学金制度を望んでいることが伺われました。

「実際の利用者では利用者はどうであったか」と、教育委員会に問い合わせた結果、「奨学金制度の利用に対する問い合わせは幾人かあったが、実際に制度を利用しているのはお一人だけ」ということです。新年度ということもあるかもしれませんが、利用人数の少なさに「以外」と感じました。

この奨学金を利用しなくても資金が間に合ったのか、奨学金制度の内容に魅力を感じないのか、利用をしにくいのか、はたまた進学を初めから望まなかったのか。奨学金制度を創設し、予算化し、申込者が予算に対し多ければ補正で対応をしていく方向であったにもかかわらず、その利用の少なさの原因についてどのようにお考えでしょうか。

また、国政において政権交代が現実となった今、子供手当子供1人当たり年31万2千円を中学卒業まで支給。公立高校を実質無償化。私立高校の学費負担の軽減。大学生などの学生に希望者全員が受けられる奨学金制度を創設という政策が打ち出されております。これらの政策は、まだ具体化されておりませんが、実施された場合、村独自の奨学金制度の拡充を見直していられるかどうかをお考えをお聞きしたいと思います。

次に、道路管理についてお伺いいたします。

本年の道路面の補修につきましては、例年になく多くの箇所と広範囲の路面補修が行われ、路面の凹凸の解消も図られ、以前より通行しやすい道路となってまいりました。また、国道沿いの支障木は村の事業により伐採作業が行われ、だいが整備され、安全面や景観、環境も良くなり、県をはじめ道路管理者、利用者から大変喜ばれているところであります。

村内道路を通行しておりますと、道沿いの私有地から伸びた枝や支障木が道路を覆ってきて、目立つところも出てきてまいりました。地区の道路作業において、除草や道路作業を行ってはおりますが、一般通行や電線等の支障物もあり、所有者任せや共同作業ではなかなか除去できないものもあるのが実情ではないかと思えます。

折りしも昨日、村道300号線沿いの新田のからおおぐて入り口までの間の支障木の除去を地区の親子作業で行っておられました。通行の支障となる枝や木の伐採と、要望されておりました外灯設置のために支障となる木を除去することでした。

こうした作業車2台を使用し、チェーンソーや道具を各自持ち寄っての作業は、まさに住民自らできることについては汗と知恵を出して行う下條村の共同作業であり、他ではまねのできない作業内容かと頭の下がる思いでした。

地区の方の中には、そういった作業に慣れている方や技能を持った方もいらっしゃるかと思いますが、急峻な足場の悪いのり頭の伐採や機械を使った伐採、倒木作業等は非常に危険を伴う作業もあり、道路作業としてのお役の域を超えているのではないかと心配します。

道路管理の上での共同作業のあり方について、村長のお考えをお伺いいたします。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 小池議員の質問にお答えいたします。

今、奨学金の問題がございました。200万円でございますけれども、申し込みが少ないじゃないか、どう思うということでございますけれども、これは申し込みが少ないとか、今の時代の風潮でございまして、例えばこの前地域公共交通システム、高校生を非常にそのバスを出してくれ出してくれ。そいじゃいくら乗る、誰がどうして乗るんだということを私は提案して、今の高校生の家庭に乗るか、乗らんかというのを個人名でアンケートを

いたしました。予想の半分くらいの乗車率でございます。

何でも作れ作れ、利用するで、なかなか乗らないと。これも長期的な観点から非常にとらえ方が大事でございまして、私は南部の交通機関に対して「こんな甘っちょろい姿勢では駄目だ」と。「5町村全員高校生のだけのとこへみんな全部文書往復でとれ」ということでやりまして、その結果がだいたい予想の半分くらいであったということ。

それから奨学金200万円でございすけれども、これ1人しかなかったと。この傾向があるかと思ひます。本当に必要ならば私は出すと思ひんすけれども、書類が書きにくいとか、使いにくいと、そんな次元なものでなくて、その次元のものだったらこれは使わん方がいいと思ひます、私は。奨学金というのはそういうものでなくて、なんとしても向学心に燃え、そしてうちでもなんとしてもこの後にさらに教育を受けさせてみたいなというときになれば、これは正々堂々と申し込んでくる。それを何とかこれを上げましようなんていう、これはちょっとオーバーサービスというもんかなということと、今度新政権ではこれ300万円になりました。そして10年返却が15年返却ということになったわけございまして、これと今ご指摘ありましたように31万2千円、義務教育を受けておる家庭は全部だとは公立高校には無料だとかいうことございまして、垂涎的でございます。

私たちはこれ冷ややかに見ておるんでなしに、「大丈夫かな」という気はあるんですけれども、やはりお手並みを今拝見し、そして間違っておるとこは私たちは正々堂々とやっていかないとただばらまき、そしてポピリズムだけでやっていく国家の末というのはどういふものであるか。結局今、国の予算の10倍の借金を抱えておって、なおかつそれでいくら不景気といつても、そしてまた地位保全のためといつてもばらまくという施策。これはこれで効果はあろうと思ひますし、政策の担当者に言わせれば「今、この最悪の時代に思いっきりばらまいておいて、そしてしかも内需喚起してまた経済を活性化するんだ」と、これはそのとおりでございますけれども、なかなか世の中はそうはあまくいかなのかなと思ひております。

それから支障木の行為でございます。

これは今朝も朝礼でちょっと私10分くらいこの事例を話しました。本当に頭の下がる思いでございまして、昨日5時半ころ、やっておるときにいくとなかなか大変だと思ひて

振興課長と5時20分ころ現場へ行きました。そうしたら明地原の集会場、51人出たそうでございます。明地原新田第1第2、それから山田河内の区の役員全員と。立錐の余地もなく3人ばかり飲んでおりました。最盛期でございます。

普通、私が就任したてのことなんていうのは、あんなことやってくれたって絶対やりません。絶対にやらん。

そうしてしかもそんなところへ顔出したもんならそのうちは「ビール持ってきたか、酒じゃんじゃん持ってきたか」、そんなことがじゃんじゃん飛び交うんですけれども、なんにもなし「いや、村お世話になりました」と。高車作業車2台やりました。「本当にありがたかった」ということございまして、行って見ると今までこんな狭いところですが、空がこんなに広く見えるようになった。そしてこんな木もばんばん切っておると。ばんばんというかその支障になるの。これがもし行政でやるといったら、地権者のところ行ってこんな木を切るなんて「おらの方ばっか切るじゃないか」大変でございますし、できるようなもんじゃないんですけれども、みんなが1つの目的のために一生懸命汗をかいて、餅屋は餅屋でチェーンソーの名人みたいな人が大勢あるわけでございますけれども、それが高所作業車で今危険な溪畔があると行ったけれども、そこらはもう高所作業車だもんで、上でばんばんやればいいわけございましてやって、そして目的を達成したあの満足感。もう沸き返るようでわんわんやっておりました。私も誰かをちょっと「村長も酒飲んでいけ」というかとしらんと思ったら1人も言わなくて残念でしたけれども。

いや、このエネルギー大したもんでございます。このエネルギーが下條村の根幹にあるわけでございます。私も今朝も「職員諸君もほかの町村に比べればすごくやる。だけれども、もう少しまだ頑張れるし、たるんじゃいけないよ」と。「そしてあなた方はもっと勉強しなければ駄目だよ」ということも言ってやりました。

今、職員諸君も本当に少ない人間でやっております。村民も皆さんも本当に燃えるような情熱ってあのことであろうと思いますけれども、あれを「作業したで今日はくたびれた」そんなことがみじんも感じられなくて、「いや良かったなありがたかったな」今日からもうすごく関係が良くなるわけでございますので、ぜひこれからも大いにそうした機運を伸ばしていただきたいということと同時に、銭、金の問題でなくてみんながやる気になれば相当のことができる。今言うように「村がもしこれやったらあの木を切ったらいくら保証

するんだ、それでおら方ばっか切るじゃないか」とか、次から次に出るわけでございますけれども、それは最終的に問題があったら区長が責任もちゃいいんだなとって、それはもちろん内諾を得ておるそうでございますけれども、そんな意見もございました。

私たちは、そうした流れというのをこれからも村の一番の資源でございます。自主財源というのはこういうもんでございまして、地下資源なんていうのはいくら石油が出ても50年もすれば枯渇してしまうわけでございますけれども、人間的資源というのは無限でございますので、こうした流れを次の世代にまた次の世代にと送り届けてやるのも私たちの使命であるということでございますので、ぜひそうした根底の中でまた支障木等も考えていただきたい。

それから村がやらなければいけないこと。周辺の今の下條村の国道、あの整備は県がやらなければいけない。絶対に県の管理で村は手を付けちゃいけないんですけども、本来は。そんなことをしたら話にならんということで、村が全部庭先から始まってやりました。これは相当の金がかかっております。県ももう大変な感謝というより嫌みというか、非常に苦しかったと思いますけれども。

今度シズカタクシーの前とイタクニの前、こっちで頼まんに一生懸命補助の整備をしていただきました。県がやると恐ろしい、戦車が通っても大丈夫のような資材を入れたりしてやるんですけども、そんなものを入れる必要はない。現場を知らないからとんでもないものを金のかかるものを入れてしまう。だから延長も伸びない。投資対効率が悪いということでございますけれども、ああいうのはまた下條村に適当に金をくれて、どうか村でやってくれよと。これは規則的にできないそうでございますけれども、そうすればもう少しまだやらないところもあるわけでございますし、埒が明かなければまたさらに安全対策やるということも村でも県に対抗してやっていくつもりでございます。

そういう村でもやることはやる。そしてまたさっきも言ったように、尊い自主財源としてまた1つはぐくみ育てていかなければいけないというふうなことを感じておることを重ねて申し上げまして答弁いたします。

議長（村松 積） 1番、小池昌人君、再質問ありましたら。

小池昌人君。

1番（小池 昌人） 奨学金制度の関係でございますけれども、借りるのに手こずっておると

どうか、借りられないという問題点はこの制度にはないわけでありませけれども、借りる側としての思い違いではないかというようなお話でございますけれども、実際に大学生なんかの奨学金を受給しているのが、全体の40%余の方が借りておるわけございまして、それに対して村の方でその補てんをしたらどうかということも、前回の時にもお伺いしましたけれども、その辺のことについてはいかがでしょうか。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 私も過去にあまり豊かでない民間経営をやっておりました。

人からものを借りる、大変なことでございます。特に銀行から例えば100万円借りるといったって大変なこと。小池議員も預金する方ばっかだと思いますけれども、大変なことでございます。この大変さというのを学生になるもの、その家庭というのも1回は味わってみることも必要かな。これも教育であろうと思います。

しかもあの申請用紙私も見ましたけれども、名前書いてはんこ押す。それで保証人がんがいるというようなもんじゃないわけでございますので、そのくらいはクリアしていかないと、これからのこの先行きの遠い、そしてまた見通しの悪い荒波の現実の社会の中では生き残っていくのが難しいかなということでございますので、必要なものは必要な行動を起こしてもらおうと。そして必要な情熱で言ってくれば、これなんかかまったことじゃないんだな、それは必要だと認めれば出せばいいだけでございますので、そういうことで「お前まだいらんかまだいらんか」と、これは過保護ということではないかと思ひます。その代わり困った人には徹底して村はやると。オーバーサービスくらいはやるのが私の使命でございます。しかし、事務的努力くらいは私はずひしてもらいたいと思ひております。

議長（村松 積） 1番、小池昌人君、再質問は。

1番（小池 昌人） いいです。